

第6回開催 知事と語ろう市町村ミーティング in 中山

【と き】平成22年8月24日（火） 14:00～16:00

【ところ】中山町 中央公民館

【参加者】参加者総勢約170名



- 【1 すもも農家の後継者不足対策について】
- 【2 放任果樹園対策について】
- 【3 地域に根ざした商店と郊外型大型店舗との共存について】
- 【4 子宮頸がんワクチン接種について】
- 【5 石子沢川の整備について】
- 【6 がん医療費の助成について】
- 【7 かもしかクラブによる交通安全教育の推進について】
- 【8 信号機の設置について】
- 【9 国の事業仕分けによる福祉関係予算への影響について】
- 【10 中山町の自殺対策についてのお礼について】
- 【11 地域の助け合い支援について】
- 【12 私立学校生徒への経済的支援について】

- 【1 すもも農家の後継者不足対策について】
- 【2 放任果樹園対策について】

☆JAやまがた豊田で、すもも部会長をしています。吉村知事さんにおかれましては公務の忙しい中、中山町へお越しくださいますと本当にありがとうございます。よろしく願いいたします。

失礼とは思いましたが、真っ赤なシャツを年甲斐もなく着てきました。当地区では、先ほど知事さんもおっしゃったように、「東北一すももの里」というような掲示板が2基、北と南にありまして、標語が「おしんとすももの里」というような標語が掲示されております。

10年ぐらい前ですかね、すももの売上げが2億円を突破し、2億3,000万円ぐらいだっ

たと思いますが、その時に記念といたしまして、前会長が、発想し、中山町、JAやまがた豊田から助成がありまして、すもも栽培同志会で設置したわけでございます。その看板に「東北一」と恥じないように気合いを入れるための赤いシャツを選んで着たわけでございます。そして今、中盤に入りましたすももの真っ赤に色づいたおいしいシーンをイメージして赤いシャツを選んで着用してまいりました。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

お願いでございますが、中山町特産のすももは出荷の中盤に入っております。例年にない猛暑により、苦勞の多い中に出荷対応を強いられております。現在、中山地区豊田すもも部会は部員数が**160**名、うち**70**歳を超える会員は**65%**を占めている。また、後継者は**20**名ほどおります。また農地の大半が傾斜地で、条件的には決して恵まれていない地域です。

近年、高齢化や販売価格の低迷によって、生産面積、および生産量の減少傾向が懸念になっております。その中で放任果樹園の増加が問題になっております。果樹栽培を止める際に、伐採がなく、そのまま放置され、病気と害虫の巣になっております。周辺の果樹園に多大な被害を与えております。一度放任すると回復については、年月とコストがかかります。人力では困難で、大型機械の投入が必要となります。こうした状況に行政等の支援をいただきながら対応しておりますが、なかなか実効が上がらない現状です。

山形県においては、吉村知事の音頭で、農業産出**3,000**億円の提唱があり、農業振興が重要な課題として位置づけられています。こうした中であって当地域では、狭い中山間地の悪条件でも栽培可能なすももについて、諸先輩の知恵と努力によって産地化がなされ、現在までつながってきました。しかし、前段の課題によって生産拡大ができない状態となっております。

こうした状況を踏まえ、放任果樹園の伐採と、圃場整備等について県の支援をいただき、条件整備をすすめ、同時に若手後継者はもちろんのこと、定年退職や意欲ある中高年による多様な担い手の育成を図りながら、産地化として生き残りをかけた取り組みを実施したいと思っておりますので、知事さんのご理解とご指導をお願いするところであります。よろしくお願いいたします。

(知事)

はい、どうもご意見ありがとうございます。今放任果樹園ということをお聞きしたわけでございます。農林水産業、まずおおまかにとらえてみますと食糧という位置づけでいきますと、やはり私たちが生きている限り、食べ物が必要なわけです。国でも今の食糧自給率は**40%**ですが、それを**50%**目指すということで、取り組もうとしておりますので、山形県も食糧供給県としてその一躍を担いたいと思っております。県では、農業がんばりますというふうに言っているんですけども、国の施策もありまして、非常に追い風だと思っておるところでございます。

山形県のいわゆる職人技ともいえる農家の皆さま方の取り組みは、私はものすごい力を持っていると思っております。さくらんぼをはじめ、ラ・フランス、すももも東北一ということで

ありまして、中山町にはさらにまた力を入れていただきたい分野だなと思っているところでございます。

世界的レベルでみたら食糧難が起きるといことで、中国、韓国が諸外国のものを買い占めているとか、農地を買っているとかいう現状もあると聞いておりまして、可能性という点で農業は非常に将来性のある分野の産業だと思っております。単に生産だけではなくて、加工販売まで入れまして、**6次産業化**という言葉が使われますけれども、総合産業化をもって、そこにやはり雇用も生み出して、地域にあった産業を創出することが大事ではないかと思っております。さきほど「ゆらら」の方をみせていただきましたが、その売店で「すももワイン」を売っております。加工もちゃんとやっていらっしゃるんだなと思ったところでございました。

今、お聞きしましたら、放任果樹園が問題になっているといことで、大きな課題だと思われました。それから、**160名**の生産者のうちの**70歳**以上の方が**65%**を占めているといことで、山形県全体の農業の課題、漁業ですが、みんな高齢化しております。担い手の方々どうやってそれを継いでいただけるかが大変な一つの施策としてでてくるわけでございます。

新たな担い手の確保ということにつきましては、本格的に農業を始めたいという方に対して、高齢農家や先進農家から受け入れ先となっていただいて、栽培技術や経営ノウハウを習得してもらう1年間の雇用型の実務研修というものを実施しております。その他、営農を開始する段階におきましては、機械や施設の導入費用の2分の1を助成することによりまして、農業を持続的にやっていただけるように、初期段階からの投資、負担の軽減を図っているわけでございます。いろんな段階で農業を続けていけるように、施策というものを考えていかなければならないのではと思っております。

また、品種開発というものも、やはり、大事な分野だろうと思っております。従来のすももでございますけれども、従来の主力品種、大石早生、ソルダム、太陽などに加えまして、最近本当に出てきてますが、大玉で品質がよくて、贈答向けにも用いられる大玉の秋姫でございます。**10年**ぐらい前から私は月光という黄色いすももも、本当においしいなと思っておりますが、最近はこの秋姫というのが出てきておりまして、その産地化が進められております。最近収益性の高い品目として見直されているところでございます。

寒河江にあります園芸試験場におきましては、秋姫に続くすももの有望な新品種の特性や適応性についての試験を実施しており、現在がんばっていらっしゃる**60歳代**、**70歳代**の栽培者に加え、若い後継者が有利な栽培品目としての導入を図れるように、有望な品種の選定と普及を進めてまいりたいと考えているところでございます。

今日、ご指摘・ご提案いただいたその放任果樹園でございますけれども、総合支庁の方から補足ありましたらお願いします。

(総合支庁)

産業経済部長でございます。今、放任果樹園というお話がございました。やはり一度荒廃すると、その復元が難しいということはまさにおっしゃるとおりでございます。県の方でも、去年から樹園地で荒廃しているところについて、伐採していくという事業を始めております。**21**年度は**2,100**本弱の荒れた木を伐採しているということでもあります。去年は、さくらんぼ中心でしたが、中山町さんの場合は**140**本ほど実績がございます。**22**年度も同じような事業を用意してございますので、ぜひ中山町、あるいは村山総合支庁にご相談いただければと思います。後継者対策については知事から申し上げたとおりだと思います。

(司会)

ありがとうございました。次にご発言がある方は挙手をお願いいたします。

【3 地域に根ざした商店と郊外型大型店舗との共存について】

☆吉村知事、こんにちは。私はこの町で商店を経営する者です。どうぞよろしくお願いたします。

知事もご存じのように、今地域の既存商店というのは大変厳しい経営環境にあります。そこで知事にお尋ねしたいのは、地域に根ざした既存商店と大型店舗の共存についてです。

私たち既存の商店にとりまして近隣の都市開発は、経営に大きな影響を及ぼします。特に大規模な商業地ができますと、大型量販店などの大企業が進出することになり、地域の既存商店は大打撃を受けることになります。中山町に隣接する天童市では**8 ha**、**2万 4,000**坪以上の土地を今後、商業地にしようとしています。

あまり大きくて実感として私は湧かないんですけども、この規模は、その地域の生活者のためのレベルをはるかに超えて広域的な規模だと思えます。中山町にはこれまでも隣接する商業地から多大な影響を受けているのに、さらなる開発が行われるということは、その影響は計り知れないものがあります。

山形周辺は交通の便はよいとされておりますが、それでも高齢者にとっては決して交通機関が充実しているとは言えないと思えます。今後、郊外型の大型店舗だけが生き延びて、地域に根ざした町内の商店が消滅するようなことになれば、高齢者世帯の日常生活も困難になるのではないのでしょうか。中山町でも数年前、大規模出店の話がありました。町内はもとより近隣市町の開発でもっとも深刻な影響を受けるのが地域の既存商店と高齢者だと思います。

既存商店でも努力している店はたくさんあります。しかし新しい商業地ができたからといって、地域に根ざしているからこそ簡単には出店も移転もできません。結局生き残りをかけて、お互い消耗戦を続けているのが現状です。

このようなことから、都市開発や大型店舗の出店計画につきましては、その規模において地域に根ざした既存商店と共存共栄できるような施策をお願いすると共に、県はどういった広域的な対応をするものなのか知事にお聞きしたいと思います。以上です。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。これは本当に大きな課題、全国的な課題であると聞いておりますし、本県の場合も含め各地域でその問題が起こっておりますね。中山町も例外ではないと今、お聞きして思いました。

郊外大型店は、正直行って行きやすいところがありますね。大きな駐車場を必ず整備して、駐車場代無料で、そして赤ちゃんから本当に長寿の方までのいろんなものをそこに行けば全部買える、非常に利便性の高いところでもあります。それになかなか対抗できかねるといふ現状なので、既存の商店街の空き店舗が増えたり、消滅したりということになっているんだと思います。

でも何とか商店街の生き残りを図ろうと思って、さまざまな試みをやるわけですよね。一例を申し上げれば山形市の七日町、あそこもほとんどのデパートなどは撤退しております、どうなるのかなと思っておりましたけれども、紅の蔵や七日町の御殿堰とか、そういうところをスポット一つ、二つ、三つというふうに開発して、何とか商店街を守ろうというような取り組みをしております。

郊外大型店はだいたい県外から来ていますから、いわゆる収益という点から言いましたらば、本店・本社のあるところから税金を納められるわけですから、そういう意味ではもちろん県内の産業が活性化して欲しいという思いをもっております。ただ、やはり一旦できてしまうと、そこで県内の方が雇用という場が提供されて働くことができるわけですから、一旦できてしまったら失業は誰もしたくないわけですし、雇用があるのはありがたいことですから、そういう意味で非常に県民にも恩恵のある部分もあるわけでございます。

いろいろな側面があって、簡単には答えられないところもございますけれども、商店街というのはきめ細かな対応ができるところかなって思っております。その地域の歴史・文化というものもずっと地域の人たちと共有してきているわけでございますし、また地域の人が高齢化している中で非常にきめ細かいサービスができる、電気屋さんにしても、スーパー、食料品を扱うお店にしても、配達したり、いろんなアフターサービスしたりと、きめの細かなサービスができるという点では非常に温もりのあるものができるところだと私は思っております。

どんどん郊外大型店だけが増えていくというのは、県内の産業にとってはどうなのかな、という思いがありますね。本当にその買い物だけではなくて、行政とか医療、福祉、金融などさまざまなサービスが集まってくる場でもありますので、こうした特徴を活かして商店街だけでなく、地域のさまざまな団体や機関が連携して住民の方が町に集まるような仕掛けを作るといふようなことが、町づくりになるかと思っております。そういうことが大事かと思っております。

国の方に聞いてみたのですけれども、全国で町づくりが成功しているところというのは、町づくりに命をかけるような人いて、悪い言葉で「ばか」って言ってましたけど、その「ば

か」がいるところが成功するんだって言うんですよね。一心不乱に町づくりに命をかけるような、ものすごい熱意を持って取り組む人材が必要なのかなど。そして、その人中心に町づくりが行われているところが成功していると聞いたんですね。それを一つのヒントにしていればと思っております。

新庄の商店街も本当に大変ですけども、**100**円商店街を始めた人が、一生懸命やっているとも聞いております。中山町の事情がどういうふうになっているのかということもございまして、本当に簡単ではないとは思いますが、なんとか打開策を見いだしていかなければならないと思うんです。町をよくご存じでいらっしゃる町長さんのお考えはいかがでしょう。

(町長)

先ほど質問の中にはありましたように、3年ぐらい前ですか、大型店の出店の話が現実にあったわけがございます。これが実現しなかったのは、都市計画法の絡みでございます。中山町は都市計画が単独ではありません。山形広域ということで、山形市、天童市、上山市、山辺町、中山町は都市計画が一緒でございます。従って都市開発をしたいと申し出て周りの市町村から合意が取れなければ、いろんなことができないという土地の制約がございます。これを知らないがために、あの計画は出店者の方が断念をしたということでございます。

私は今、知事もおっしゃっていましたが、共存共栄は本当に必要だと思っております。今、質問があったように、年寄りの方はいろいろ困るんじゃないかという話も出ております。現実にそういうことから、年寄りの方から注文を受けたら、宅配をするというのができないかということで、今検討をさせている最中でございます。

商業の共存共栄という部分だけでなく、町民の生活とどういうふうに結びつけていくかと、こういうことも含めてわれわれは検討しなければならないと思っております。いろいろ研究をさせていただきたいと思っております。

(司会)

ご発言がある方は挙手をお願いいたします。

【4 子宮頸がんワクチン接種について】

☆吉村知事こんにちは。中山町衛生組合連合会会長です。よろしく申し上げます。

少子化問題でちょっと質問して、お願いがあります。先ほどより農業関係、また今、商工会の方からの質問です、後継者、または人口の減少で一つお願いがございます。

先日テレビを見ていたら、吉村知事が一日子ども知事室で、大変にこやかに元気にやっていたのを拝見しました。やっぱり人口の増加がないと、子どもが元気でないと大人も元気になれない。

それで子宮頸がん問題ですね。人口を増やすにはやっぱり健康な母体がなければ人口は増えないと思います。今月やっと国のほうで、大臣が来年度の予算で **150** 億円ほどの予算要求をしたいということで、子宮頸がんの助成をしたいということでございました。既に、大蔵村では **100%**助成してやるというような報道もございました。

中山町は小さな行政ですから、なかなか財政問題でも大変だと思います。これをやると他のいろんな問題が立ち遅れたりすると思います。このワクチンで、子宮頸がん **90%**以上予防できると報道で聞いております。この前、健康教室の先生からも若干そういうふうな説明がございました。質問したところ、やっぱり2種類ぐらいの病原菌にだけしか対応できない。しかし、「がんだ」って言われただけで、もうすでに言われた人、言われた家族はもう頭が真っ白になると思うんです。

私の場合も娘が妊娠した時に、そういう状況になって、「がん」って聞いただけで、もう真っ白になるわけです。だからそのたった2種類にしか対応できないかもしれませんが、県としてぜひ、進めていただきたい。助成していただきたい。

幸いにも知事が女性ですので、十分、分かっていただけじゃないかと。せっかく全国でたった3人の女性知事だと子ども知事室でも言っています。山形県が **100%**全国に先駆けて助成したと、あれもこれも自ずとピーアールも兼ねられるんじゃないかというように思います。先ほどから農業の後継者問題、商工の消費の問題、人口が増えなければ全て繋がらないと思います。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

(知事)

はい、どうもご意見ありがとうございます。いや、本当におっしゃるとおりでして、人口というのは、ものすごく大事だと思います。人口が全ての指標になると私は考えております。もう山形県は減り始めておりますが、平成 **19**年から **20**年にかけて **9,000**人ぐらい減っております。山形県内の中規模の町が、1年に一つ無くなっているというぐらい減っているんですね。

そして減っていくとどうなるか、人口が減れば物を食べるのも少なくなります、買うのが少なくなります。食べ物も服も買うのが少なくなる、車も買わなくなる、家も建てなくなる。もう社会の全てが、低下していくといいますか、活性化がなくなっていくという現象が起きてくるわけです。

そういうわけで人口減少抑制策はとにかく最重要課題だと考えておまして、県では施策を去年からやっておりますが、世界的な大不況というなかで本当に難しいんです。人口減少に適応していく人口減少適応策、減っていったらこういうふうにしていけばいいということはあるんですけども、人口減少抑制策っていうのは本当に難しいことです。

でも、とにかくそれはやっていかなきゃいけない。取り組んでるところでありまして、子育て推進部もがんばっておりますけれども、雇用という面も大事ですので、2年間で2万人の雇用創出を目指す、山形県雇用安心プロジェクトというものを今年から始めているわ

けでございます。大変厳しい状況でございますけれども、がんばっていきたいと思っております。

今、ご意見いただきました子宮頸がんのお話でございます。本当にこれも大事なワクチンでございます。子宮頸がんのウイルスの種類、**15**種類、発がん性の高いウイルスがあるということでありまして、そのうちの2種類に有効というふうに聞いております。産婦人科のドクターが来てお話ししていただきましたけれども、その2種類が、子宮頸がんのうちの6割から7割ぐらいを占めているということで、このワクチンを打つと、結果的に、子宮頸がんの発病者の6割弱ぐらい予防できるということでございます。

だから半分以上は予防できるということでございますが、私がなぜ積極的にすぐすぐ対応していないかという、副作用がはっきりまだ分かっていないというところがあります。本当に「がん」と聞いただけでも真っ白になるぐらい大変な病気でありまして、若いうちにワクチン接種してそれで予防できるんだったらこれぐらいいいことはないと思っておりますが、このワクチンの副作用というところが今ひとつはっきり分からないところがございまして、そこが課題なのかなと思っております。

それでも早く前向きに取り組んでいかなければいけないということを考えておりまして、7月の**30**日ですけれども、私は国に対し、平成**23**年度の国の施策等に対する提案というものを行ってまいりました。内閣府と厚生労働省両方に行きまして、特に厚労省の方ではこの子宮頸がんワクチンの全国的な接種、予防接種の助成ですかね、そのことを提案してきたわけでございます。

私は確かに女性知事ですが、これはしかし女性だけの問題じゃなく、おっしゃるようにお父様にとってはお嬢さんのことがやはり心配でありますし、私の知り合いで何人か子宮がんで亡くなっているのですけれども、主婦が子宮がんで亡くなった後、そのご家庭というのは大変な状況です。お子さん方が3人残されて大変だったり、ご主人がお総菜買ってきて食べているというようなことであったりですね、本当に家族全員にとって、大変な状況になるわけですから、本当に女性だけの問題ではなく全員の問題だというふうに私は認識をしております。

本当に安全かというところを知りたいなと思っているわけでございますが、ただいつまでもそこにばかりにとどまっているわけにもいきませんで、やはり前向きに考えていかなければいけないなと思っているところでございます。

おっしゃるように大蔵村とか最上町なども取り組んでおります。

ただ、定期的のがん検診、特に女性ということであれば、二十歳過ぎたら子宮がん検診というものをきちんと受診していただいて、早期発見してお体を大事にさせていただくことが本当に大事ですので、そのところも進めていかなければいけないことだと思っております。

全市町村で二十歳から5歳ごとに、ということでございますが、子宮頸がん検診の無料クーポンというものが配られておりますので、ぜひこれを活用して、がん検診をしっかり受

けていただきたいと思うところでございます。

総合支庁の方で補充してもらえますか。

(総合支庁)

村山保健所長です。ただいま知事が申し上げたように、がんはやはり検診が非常に大切でございまして。特にこの子宮頸がんというのは、血液検査とそれから細胞の検査でほぼ**100%**診断できます。ということで、ぜひ無料クーポンを利用していただきたいと思っております。

ちなみにですね、一番新しい調査でいいますと、子宮頸がんは、山形県で1年間に**123**人見つかっております。そのうちで亡くなった方が**19**名ということでございまして、早期に見つかった子宮頸がんは簡単な手術で完治しますので、とにかく早期発見ということが大切でございまして、検診のほうを積極的に勧めていきたい、いただきたいと思っております。特に若い方ですね、非常に恥ずかしがって行きたがらないのですけれども、二十歳過ぎたら行くようにしていただきたい。

子宮頸がんの特徴は、先ほど見つかった**123**人のうち**60**人の半分は**20**代、**30**代なんです。いわゆる出産年齢の方です。ということで知事がおっしゃったように、非常にそういった方が不幸な転機をとりますと、家庭に対する影響は非常に大変なことになりますので、若い方にも、検診を受けていただきたいと思っております。

それから、ワクチンでございしますが、知事も申ししておりましたように、副作用のことがよく分かってないということなんです。日本では昨年末からですけども、アメリカでは**2006**年に認可され、実際には**2007**年から積極的に使われ始めております。アメリカの国家機関は若い女性には「これはぜひやりなさい」と、国のレベルで勧めております。

つい、3日前に報告がありまして、その接種率のデータが出ておりましたけれども、3回ちゃんと受けたよ、というアメリカの女の子が、大体**27%**という数字が出ております。

そういったことでフランスも何百万人という若い女の子が受けておりますが、数年レベルでは重大な副作用というものはまだ報告されておられません。ただ長期的なことに関しましてはやはり、今後、追跡しないとまだ分からないという現状でございまして。以上です。

(司会)

次にご発言のある方は挙手をお願いいたします。

【5 石子沢川の整備について】

☆左沢線の西部、出羽丘陵のふもとの柳沢に住む者です。地区内の石子沢川という一級河川が流れています。今その川が敷地内に堆積する土砂のため川幅が非常に狭くなっています。その川のほとりに住む住民から「ゲリラ的豪雨が降って増水し、ブロックや石積みの土手に激流となって押し寄せるようすに驚き、なんとか土砂を除去し、最大川幅を確保してほしい」という切実な要望がありました。

このことは町を通して県に毎年お願いして十数年になります。知事さんに直接お願いすれば違った展開になるのではという、いちろの望みで今日のお願いになったわけです。ご配慮、よろしくお願いします。

(知事)

はい、ありがとうございます。石子沢川は先ほど見せていただきましたけれども、本当に草がぼうぼうでしたね。本当に最近は鉄砲水みたいなものも、土砂降りの後になったりして、今日見たときは、堰みたいに見えましたけれども、あれが結構暴れるということをお聞きしまして、整備しなくちゃいけないんじゃないかと思ったところです。

毎年、要望しているとお話を今、伺ったところでございます。あそこはやはりきちんと整備しなければ、と私は考えておりますが、総合支庁どうですか。やってほしいですね。

(総合支庁)

建設部長です。私の方から石子沢の今のご要望の件について、答えさせていただきます。今、お話がありましたけれども、村山管内で相当数の河川を管理しています。そんな中で整備や管理面でいろいろご迷惑をおかけしているところもあるのかなと思ってございます。

石子沢につきましては、柳沢で、河川をきれいにするというような河川アダプトもやっていただいております、皆さま方から大切にいただいている川なのかなと思っております。先ほどありましたように、最近雨の降り方なんかも変わってきています。

何年かご要望なされたということでございますが、今日、お話聞かせていただきましたので、河川担当に役場さんを通じてお話を聞きながら現地を見させていただいて、直ぐに対応できるものか、時間がかかるようなものもあるかと思っておりますけれども、対応してまいりたいと思っておりますので、現地等での調査よろしくご協力をお願いします。

(司会)

次にご発言があるかたは挙手をお願いいたします。

【6 がん医療費の助成について】

☆吉村知事、こんにちは。旭町の者です。5年前に乳がんと診断されて、術前抗がん剤治療、手術、ホルモン治療を続け、去年6月に転移して経口抗がん剤、ゼローダ等の治療をしているので、すごい医療費が高額になってしまいました。

それで高額医療は使ってます。使ってはいますけれども、低所得で独身なんです。だからうちの母親から年金で出してもらってる状態なんで、がんに対して助成をしていただきたいと思っております。直接ご相談に来ました。よろしくお願いします。

(知事)

はい、今日はどうも大変な中をいらしていただいております。そしてまた、

今、お話を伺いましたらば、乳がんにかかられているということで、またなかなか所得が高くないという状況の中で、大変な思いをされているかと思ってお聞きしました。

本当がんとするのは本県の死因の第一位にもなっておりまして、県民の命が大事だって申し上げておりますので、重大な問題と思っております。早期予防ということで、その早期発見のためにがん検診を必ずしてくださいと先ほど申し上げたのですけれども、がん検診も含めまして、いろんな取り組みというものを実施していく必要があると考えているところでございます。

がん医療費に限らず、病院に長期入院した場合は、ご相談というものがあります。高額医療制度を今お使いになってらっしゃるとのことでしたが、がん診療連携拠点病院というのがございまして、そこでさまざまな相談支援をやっているということでございます。

患者さん、そのご家族を含めた生活や、療養上のさまざまな困難について、専門の相談員による相談を行っているということをお聞きしておりますので、ぜひご利用していただきたいと思っております。これも含めまして、総合支庁からご説明ください。

(総合支庁)

保健福祉環境部長です。高額療養費を利用されてるということでございますが、その他に知事から申し上げましたがん診療連携拠点病院ということで、どちらの病院にかかってらっしゃるかは分からないんですけども、村山地域であれば山形大学附属病院であるとか済生館であるとかでいろいろ相談にのっております。

それから市町村民税が非課税の低所得者の方とか、そういう所得が低い方については無料、または低額な料金で診察を行っておる病院もございます。村山管内でいいますと、済生病院がそういった診療を行っておりますので、ぜひ専門の町の窓口、あるいは総合支庁でも結構でございますが、医療機関に言っていただいて、まずはご相談していただければというふうに思います。

(司会)

ありがとうございました。次にご発言のある方は挙手をお願いいたします。

【7 かもしかクラブによる交通安全教育の推進について】

【8 信号機の設置について】

☆こんにちは。中山町青葉に住んでおります。よろしくお願ひします。すごい質問なんですけど、私は全然、そんなお願ひというようなものなんですけど、私には3人子どもがおりまして、一番下が年中さんでの男の子。それから小学校4年生の男の子。その上に高校3年生の女の子がいます。

年がものすごく離れているもので、なんかいろんな事を子ども達に教えてもらいながら、今、母親をやっているんですが、上の子の時にまだ神奈川にいたんですね、その時、神奈川の藤沢のほうにいて、子どもが3歳になった時に「かもしか」に入りました。

そこは結構マンションも多かったので、その地区だけで「かもしか」に入ってる人が **60** 数名いました。他の地区もやはり人数が多く、小さい3歳頃から入ってるそのお母さん達は、道路の危険とかいろんなものを知ってるからこそ、子どもに早めに入って勉強しなくてはけないという気持ちが強く、私もそうだなと思い、誘われて入りました。

次に山形に引っ越してきました。山形に最初に引っ越してきたのは天童市でした。天童の南小畑とって、ちょうど新しい団地ができて結構人数も多く、子どもの数もものすごく多く、その時にちょうどうちの娘の同級生が、南小畑でも6丁目まであるんですけど、4丁目だけでも **16** 人ぐらいいたんですね。その時に、「かもしかは無いですか」と聞いたたら、「まだ新しくできたばかりでうちでは作ってない」、「じゃあ作りましょう」と言ったときに、公園もすぐそばにあるし、学校も近いし、危険性はないからそんなもの作らなくてもいいんじゃないかという話になり、延ばし延ばしにもなり、でも最近できた、という話を聞きました。

それから中山町に越してきて、3番目の子どもを去年から「かもしか」に一緒に入れることにしました。入ったら青葉地区は全国でも珍しく、子どもの育成会の人数が **67** 名ぐらいます。ものすごく多いです。にもかかわらず、かもしかには毎年 **10** 数名しか入らず、私もどうせ入るならと思ってご近所の人とかもたくさん誘いました。

そしたら、たいていのお母さん達は「土曜日、月たった1回の土曜日、午前中、休んでいたいから」とか、「そんなの行かなくても子どもに対して危険があるっていうことは私がよく分かってるから大丈夫よ、わざわざそこに行かなくても大丈夫」というふうに言われました。

私はちょっと自分のことなんですけど、昔、子どもが、上の子が小さかった頃にシンガポールに行ったことがあって、自分も働いていたので、子どもに見せたくて行ったんですね。その時にちょっとした自転車事故に遭いました。そしたら、その地元の警察の方が「君はそういう『かもしか』のようなそういうものに入ってるのか」と警察の方に聞かれて「いや、こちらにはステイしにきてるので、そういうのには入ってません」という説明をすると「ぜひ、こういう機会に入った方がいい」と言われて、一応のぞいてみたら、まず行ってすぐにヘルメット着用の話をして、子どもを小さいうちから自転車でもなんでも乗るんであれば、ヘルメットをかぶります。お母さんの自転車の後ろに乗るにしても、なんにしてもやっぱりヘルメットは必要だっていう話をうけて、さっそく買いました。向こうではやっぱり警察がそういうみんな周りの自治体とかも、そういう交通安全とか、いろんな危険性から子どもを守ろうという体制がすごかったです。

だから、日本にきて入った時も、その神奈川でも、ものすごくそういう気持ちの体制が強くて、やっぱり日本も向こうも同じなんだって思ってたんですが、山形に来たら意外にそういうのがあまりなく、いろんなお母さんに聞いても「あたしは知っているから」っていうふうに、「危険を知っている」って言われたんですが、いろいろ見てると、最初山形に来たときはそんなに事故もなく殺人事件もないので、とても穏やかなところだなと思いました。

た。でもここ最近、山形になんか似つかわしくない言葉を聞いたり、殺されたとか、それから子どもの事故でもシートベルト着用してなかったために、なんか、去年か一昨年あたりは天童市のほうでお子さんが亡くなったとか、そういうことをよく聞くようになり、それをもって他のお母さん達にまた勧誘に行ったんですが、全く皆さん「うん、大丈夫、危険なのは分かる、私が分かるから大丈夫」。でも、そのお母さん達、**20代**、**30代**のお母さん達が危険だって分かる程度っていうのは自分たちがまだ子どもの時の山形に住んでいる時の危険性だと思うんですね。

なんか今、危険性が自分たちが子どもの時とまた違っている。また目に見えない危険とか、あとは道路だけが危険ではない。危険は道路だけではなく、いろんな所に潜んでいるということの、その、そういうことを本当は知っているつもりになっているんじゃないかっていうふうに思って、今、私も「かもしか」のサブリーダーをしてるんですが、そのお母さん達や、あとはちょっと他の県外のお友達のお母さん達とよく話をしたり、ただ、子どもを生む前のお母さん達とよく話しをして、もう少しそういう知識を知っていたら、やっぱり先ほど他の方が質問してました人口が減ることがすごく問題だということもありますけど、やっぱりせつかく子どもを産んでもその子どもを死なせるようなことになったりとか、するのを、ちょっとちっちゃなことからみんなの認識から変えれば、段々子ども達もそういうことを危険性もなくなるし、しかも山形にきて子育てしやすい環境もすごくあると思うんですよ。

私、山形に越してくるまで **48kg** だったんですけど、今日カミングアウトするんですけど **20kg** 太ったんです。たった **10** 数年で。**12** 年ぐらいなんですけど、太ってしまったんですけど、まず空気がおいしくて深呼吸をしても鼻の下が黒くならない。

みんなおかしいかもしれませんけど、関東、関西は深呼吸をすると夕方には鼻の下真っ黒です。排気ガスがすごいんですよ。そういうところに住んでいたの、食べる物とかもお米もおいしくて、お米って今まで噛めば噛むほど味が出るってのが知らなかったし、パンとかで過ごしてたし、あとはリンゴがいろんな種類があって、そのいろいろな種類で味が違うってのも知らなくて、むさぼるように食べてしまい、この体型になってしまったんです。これは全て山形のおいしさが悪いんだとみなさん反省しなくてよろしいですから、自分が反省します。はい。

だからとてもおいしいものはすごくいいし、自然もあるし、すごく緑もあって、子どもを育てるにはものすごくいい環境なのに、やっぱりお母さん達が、今のお母さん達がそういう認識の薄さのために子ども達が危険にあったり、それだけではないと思うんですけど、やっぱりそれをなんとかしてほしいというのって、みんなで考えた結果がそういうなんかディスカッションみたいなのをやったらいいね、っていう話になり、パネルディスカッションとかして、例えばそういうのを子どもだけではなくて、お母さんとかお父さんとかおじいちゃんおばあちゃんに来ていただいて、それに来るにはやっぱりちょっと餌がなにか必要なので、ちょっとしたお祭り、イベント系的なことをやってもらって、そんなお金を

かけるものではなくて、したいんですが、それをしたいというふうに前に県庁の何でも相談室的なところに電話をして聞いたことがあったんですけど、その時に別にそういうのはそちらの自治体でやってくださいみたいな感じで、言われたことがあったんですけど、でも危険性のことをあまり分かってない人たちに言っても分かんないのかなって思っ

ちょっとあれなんですけど、うちの娘が前に事故に遭ったんですよ。中山町の青葉の団地の道路なんですけど、セブンイレブンのところのあるんですけど、その道路に信号機が全くないんですね。

今、その信号機がないので事故が結構多発してるので、危ないということでお母さん達が毎朝立哨してるんですね。それをやってもやっぱり事故が減らず、でも信号機もやっぱり立ててもらえず、ある日、山形の警察署に電話をして聞きに行きました。そしたらなんか受け答えがいまいちだったので、生活安全課というところで聞いてきたら「誰か死んだの？」と聞かれました。私思わず頭にきて「誰か死んでからじゃないとあなた達は動かないんですか」って。「じゃあ、死人が出れば信号機作ってもらえるんですか」って言ったら、「ううん」みたいな感じで終わっちゃったんですけど、ちょっと頭が悪いなと思って、そういう危険性とかもすごく身近なところで起きてるということを中山だけじゃなくて、県のみんなに、みなさん子どもを持つ親がやっぱり考え方を変えなくてはいけないので、そういうディスカッションなりをやる場を吉村さんにちょっと口添え、私たちのようなこう、若輩者ではなく、力のある方に口添えしていただいて、そういう会を開いてもらえるお手伝いをいただけたらなと思って発言をいたしました。

それからこの子育て支援パスポートはボロボロになりながらもしっかり使っております。みなさんにも使うように、友達にも言ってますので、はい、よろしく願いいたします。

(知事)

はい、本当にいろいろご説明をいただきながらのご要望と言いますか、ご提案と言いますか、ご意見ありがとうございます。「かもしかクラブ」というのはみなさんご存じでしょうか。小さい子どもを対象としている交通安全教育というようなことを行うところでありまして、私も子ども2人おりますけれども、子どもが小さい時に連れてったことがあります。

その時、警察官のかたが来て、男の子の形をしたダミー人形を立てたんです。それに向かって車を、時速 10 キロというと結構ゆっくりなんですよ、のろのろなんですけれど 10 キロのスピードで近づいて行って、その人形にぶつかったんですね。人形がパターンともものすごい勢いで倒れたんですよ。だからすごいゆっくりしたスピードの車でも、人間にぶつかった時にもものすごいその威力があって、すごい衝撃を受けるもんだなあと思って、私がショックを受けたことを覚えています。

言葉でどうこうのじゃなくて、目の前でそういうのを目にすると、子どももそれを見て覚えるといいますかね、言葉の説明じゃなくて、結構その実際のことを見て覚えるという効

果があるっていうふうに私はその時思いました。

ですから今いろいろお話を聞いておまして、それを思い出しまして、確かにその保護者の方が理解していても、その子どもさん達にまで交通安全に対するね、いろんな対応が理解されているとは限らないんじゃないかっていうふうに思ったところでございます。かもしかのサブリーダーとして地域で活躍していただいているということに心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

3人のお子さんを育てていただきながら、またそういう活動もしていただいているということは本当に心強い限りでございます。後から町長さんからも多分、お礼の言葉があるんじゃないかと思っておりますけれども、どういうことができるかっていうのは、すぐお答はできないのではありますけれども、県の方では、子どもの交通事故防止ということを重点としまして、「交通安全 山形路いつも心に思いやり県民運動」を生活環境部のくらし安心課で運動を展開しているところでございます。

県民運動ということを通じまして、かもしかクラブのような地域に根ざした取り組みの紹介とか応援などをしていきたいなというふうに考えております。本当にこれからも地域の子どもの安全というものを守るために引き続き、ご協力をお願いしたいと思っておりますし、県の方もできるだけのことをやっていきたいと思っております。

その前に、今本当にありがたいと思ったのは、山形で子育てして、いいことがたくさんありますってことを実感したというお話を聞いたことであります。深呼吸すると鼻の下や中が黒くなるっていうのは本当に都会に住んだ方であれば分かるんですけど、どうしても山形県内に住んでいる人は当たり前みたいに思って、空のお星様見えるのも当たり前だと思うんですけど、実はそうじゃなくて、このきれいな空気とかおいしい水とか、これはものすごい宝物なんですね。夜空の星、それすらも星は観光にできると思う。ものすごい山形県には資源がたくさんあると思います。資源だらけだと思っております。食べ物のおいしさにも言及されました。本当に私どもはおいしいのが当たり前でございますけれども、そのおいしいことを知っている山形県民が、おいしい米だと言っているのがつや姫でございます。今年の秋に本格的売り出します。これは魚沼産コシヒカリを、味も超えよう、値段も超えようを合い言葉に10年以上かけて開発してきたんですよ。で、味は超えたんです。食味計で超えております。実際に食べてもおいしいです。値段は超えておりません。

こういう社会状況で、なかなか高く出せない、かといって安くすると、農家の方が大変悲惨な状況になってしまいます。やはり有機栽培、特別栽培でがんばっている農家の方とか、いろんなことを配慮して、ご贈答にできるくらいの価格というものを、農協さんとか県とかでいろいろお話をしながら考えなきゃいけないと思っております、宣伝もやっていかなきゃいけないんです。今年の秋に秋田県も新しい米を出します。北海道も出します。はっきりいって競争なんです。だけど、味は絶対負けませんから。つや姫が一番おいしいです。これは自信を持って言えます。

だから山形県民っていうのは米のおいしさを知ってるんですから、その米のうまさを知っ

ている県民が、これはおいしい米なんだって宣伝して、県外の方にちょっと送ってあげたりですね、なんかお祝い事の引き出物にさせていただいたり、法事でも何でもいいんですけども、そのようにしいてお使いいただけましたらば、ほんとに口コミで、県民パワーでやっていくのが一番強いというふうには思っておりますので、今日お集まりの皆さま方、中山町の皆さま方にもぜひ、ご協力をお願いしたいと思っております。

つや姫食べましたか、どうでしたか。

(発言者 続けて)

食べました。本当につや姫ってつやつやしてるというのがわかりました。炊いて、10分経って、あまりにもいいお米だったので炊飯釜で炊くのがもったいなく、土鍋で炊いたんですね。そしたら、普段はうち、玄米しか食べなかったんですけど、あまりにもおいしいから食べてみなさいって言われて、いただいて、炊いたら、本当につやつやで、思わず熱いのを忘れてつまみ食いしたら、熱いんですけど甘くて、熱いんですけど甘い、この、この、どうしたらいいの？ みたいな感じになりました。

(知事)

ありがとうございます。ものすごい絶賛をしていただきました。是非つや姫ファン、みなさんよろしくお願ひしたいと思っております。

子どもの交通安全教育というのは本当に大事なところでございますので、警察ももちろんでございますが、こんど本部長にあった時にも言っておきます。県としても伺ってまいりますし、ぜひ地域ということでもそここのところを、なんらかの取り組みでね、みんなに関わっていけたらと思っております。ということで中山町長さん、よろしくお願ひします。

(中山町長)

交通安全、かもしかクラブについてですが、豊田地区は加入率が高いようですが、長崎地区は低いという傾向はあるようでございます。

ただ、中山町の交通安全協会は組織がしっかりしておりまして、年に何回も会議を開きますし、それから秋、今年10月には、子ども、かもしかクラブのスタンプラリーと町民交通安全、町民大会が一緒にお祭りもやっています。実施しているのは、県内の市町村では半分もございません。

そういった意味では、中山町は比較的熱心に取り組んでいるつもりでございます。サブリーダーもしていただいて大変感謝をいたしておりますけれども、やはり加入するしないというのはなかなか強制できるものでないものですから、なかなか難しいなというふうには話を伺っていたところでございます。

それからもう一つ、信号でございますけれども、信号機はだいたい1機に2,000万から3,000万円かかります。そうすると県内で県の警察全体で持つてる予算が3億円前後なんで、1

年間でだいたい 22 台ぐらいしかできないというのが現状でございます。そういう面から、なかなか中山町でも何カ所か信号機を設けて欲しいということで、10 数年来要望を続けている箇所は数カ所ございます。それでも実現はまだしません。

ということで非常に信号機の設置についてはかなり難しいなというふうに感じているところでございます。ご理解いただきたいと思っております。

(司会)

ありがとうございました。次にご発言がある方は挙手をお願いいたします。

【9 国の事業仕分けによる福祉関係予算への影響について】

☆民生児童委員の会長をやっています。ようこそ、この中山へおいでくださいまして、ありがとうございます。

先ほど知事おっしゃっているつや姫のデビューいよいよですね。本当に、輝き深い爽やかな青空を見ているような感じで、本当にご苦勞を強く感じております。ありがとうございます。どうぞこの社会機運を盛り上げて、ますますの意欲に期待する町民の一人でございます。今後ともよろしく申し上げます。

実際、今、実感してる中山町ですね、少子高齢化まっただ中の対応が急務とされておられます。その中で、県また市町村、自治体に対しての機構改革、今、話題の事業仕分けに、よくこの財政等、それからその命等々の状況等なんかをお話聞けたらなと存じまして、一言お願い申し上げた次第です。よろしく申し上げます。

(知事)

はいどうも、ありがとうございます。国の事業仕分けによって県の福祉事業予算についてどのような影響があったかということですか。

皆さんご案内のように、昨年政権が交代して、政府の行政刷新会議というものができて、平成 21 年 11 月には国の 449 事業を対象として、事業仕分けが実施されたわけでございます。今年の春、平成 22 年の 4 月、5 月には独立行政法人や政府系の公益法人が行う事業を対象として、事業仕分けが実施されたことでございます。

福祉分野の事業につきましても予算の縮減や見直しなどの評価がなされましたけれども、精査しましたところ実質的にはですね、県の事業や予算の削減にまで繋がったものはありませんでした。

事業仕分けなどの国の動きが県の事業や予算に与える影響については、やはり大事なところでございますので、今後ともしっかり注視して参りたいと思っております。総合支庁から補足ありましたら申し上げます。

(保健福祉環境部長)

福祉の分野についても実際には予算が削られたというものはありましたけども、それは元々の予算が、国の段階で言えば、多かったということで不用額が出ていたようなものでございまして、実質、県にとって必要な予算は確保されてると思っておりますし、今後ともそういう必要な予算については、しっかり確保してまいりたいと思っております。以上でございます。

(司会)

ありがとうございました。次にご発言がある方は挙手をお願いいたします。

【10 中山町の自殺対策についてのお礼について】

【11 地域の助け合い支援について】

☆知事さん、こんにちは。私は下川の者です。大変物忘れの激しい男でございます。今日は皆さんいろいろ産業構造やら医療、多岐にわたって話なされておりましたけども、私は非常に簡単なことをお話申し上げます。

一つはご報告です。この中山町の健康福祉課の全職員の一人一人の協力によりまして、私の友人の命を救っていただきました。今、大変、自殺率うんぬんと、離職してうんぬんというような話が、もう何十、**10**年以上ですかね、続きますけども、その中でこの中山町の健康福祉課の職員のご尽力のおかげで、一人の私の友人の命が救われました。二つ目は今、県の方で、地域生活助け合いサービス推進事業、これ **6,200** 万円でしたかね、予算が。それで行われていると思いますが、これに関する私の感想とお願いです。

まず報告ですが、一つ目の私の友人の命を救っていただいたこの中山町の健康福祉課の職員の皆さまのことですけども、いわゆる国の自殺対策基本法の基本の理念、これにのっとりまして、山形県には「自殺総合対策大綱」がございまして、その大綱に基づきまして、中山町の健康福祉課の職員の方々の熱い思いが、私の友を救っていただいたものと考えておりますが、いかがでございでしょうか。

本当にこれには1年かかりました。要因とかそういうことはちょっと個人的なプライバシーもあるので、詳しくはお話できませんが、そんなことで、これは知事さんの庶民、県民に対する敬愛のお考えをそのまま具現したものではないでしょうか、というふうに思います。

そういった意味では、この中山町の健康福祉課の行政職員の方、素晴らしい人材であると、熱い人材であるというふうに私は考え、感謝しております。また健康福祉課はじめ、他の分野でも活躍している人がたくさんおります。ですから今、給料うんぬんいろんなことがありますけど、中山町の職員で必要でない方は一人もいないと私はそう思っております。そういうことで一つ、職員の待遇もひとつよろしくお願ひしたいというふうに思っていますので、ひとつこれは私のお願いでございます。

それから二つ目ですけども、現実の社会は、人と人とのつながりの希薄化。先ほども申し

かクラブで、いわゆる親御さんたちの意識の薄さうんぬんと言われてましたけど、そういった人と人とのつながりの希薄化。それからこれは地縁による地区でございますので、いわゆる縁故関係が地縁という縁による地区でございますので、人と人との相互依存のあり方に大きな変化が出てきたのではないかというふうに考えております。それによって家庭、家族の変容が出てきてきた。こういうふうに私なりに理解しております。

県はその地域の助け合い、支え合いの仕組みづくりに力を入れると、こういうふうに健康福祉部ですか、のほうで断言しておるといふふうに私は確認しております。その仕組みづくりというのが私は本当に大変なことであるといふふうな思いがいたします。

これは一つの岡山県の例ですが、高齢の方が、一人暮らしのおばあちゃん達が、「今日も元気だよ」ってことで、赤旗を揚げ始めた。お互いに今日もみんな元気なんだ、いふふうなことを確認し合い、地域の中に溶け込んでいった。こういうふうな一つの仕組みづくりもあるかと思いますが、またこの中山町は中山町なりに、本当にこの地域の助け合い、支え合いがどのくらい必要かっていうことを考え合わせてこの仕組みづくりは本当に大変な作業であるといふふうに思っております。

これに携わる県ならびに町の行政関係の人、本当にご苦労様でございます。それでこれに関して多少の私の言葉でちょっと言うのはちょっと非常に私も頭が悪くてちょっと忘れっぽいので、ちょっとある二人の識者の対談しているのを新聞に載っておりましたので、それを私の思いと、それからお願いということできみ取っていただければ幸いかと思います。

一つは昭和女子大学長の板東真理子さんの言葉です。「今、私が心配しているのはグレートマザーというか懐の深い、本当に包容力のある母親が少なくなっていることです。肉親だけの間のピュアな愛情で結びついた家族というのは、異質な存在を排除し、いじやくになっています。おじさん、おばさん、居候がいつの間にか住みついたというような家族以外の人を受入れる懐の深さを今の女性達がなくしているのが寂しい。さらに私もアメリカに留学して全然言葉が通じないとき、親切な人が手をさしのべてくれたことで、日本に帰ったら自分ができることを人にしようと考えようになりました。人に世話してもらったという、体験が人間には必要という気がします。」これが板東真理子さんの言葉です。

それからご存じの通り、在日二世の東京大学大学院の教授の姜尚中さんの言葉です。「たくましくなるためには何か特効薬があるのではなく、時間はかかるけれども、人にお世話になる。人のお世話をする。そういう体験を積み重ねることが一番の早道だと思います。」

今回、私は町の行政職員の方、それから県の職員の方に大変お世話になりました。そんなことで何かの参考にその、設置、生活助け合いサービス推進事業の仕組みづくりに参考になるかどうか分かりませんが、ひとつよろしくご検討お願いします。

以上です。大変長くなりました、すみません。

(知事)

はい、本当にありがとうございます。これからの地域社会づくりということで、大変大事な視点、またご示唆をいただいたと思っております。おっしゃることが全てもっともだというふうに思っております。

まずもって報告いただいたそのご友人の方が命を救われたということで、本当によかったなと思ってお聞きしておりました。自殺対策は国の方でもやっておりますし、県でも力を入れております。もちろん町の方でも今おっしゃったように皆さん、住民の皆さんに一番近い窓口っていうのが市町村ですから、中山町の皆さま方にとっては中山町でございます。その中山町の健康福祉課の方々が一生懸命努力されたっていうことを、今、お聞きして本当に、ありがたいなというふうに思ったところでございます。これからもぜひ引き続きそういう取り組み、また、住民の方との交流というものを、しっかり続けていただきたいなと思っております。

地域の助け合いは、本当に大変だというお言葉を何度もお伺いし、今日の社会は、人間の絆というものが希薄化している。特に大都会、都市部ではもう地域社会というものはもう存在しないというふうに聞いており、隣に住んでいる人も分からないという大変な状況にあると思っております。

人間が生まれてくるときには、すでに親御さんとかご家庭というのがあるわけですから、やはりその絆ということをしっかりもって大事にしていく社会をこれからも継続していかなければならないと思います。

本県の場合も同様に核家族化はすすんでおりますし、一人暮らしの方も増えているわけでございます。しかしながら、遠くの親戚より近くの他人という言葉がございますとおり、それぞれの地域社会で町内会とか、民生委員の方とか福祉協力員とか、いろんなお役目をボランティア的にやってくださっている方々がおられるからこそ、山形県の地域社会の絆はまだ生きているというふうに思っております。社会の絆をこれからどういうふうに持続していくか。さらによいものにしていくかが課題だと思っております。

虐待も、地域社会で予防、解決できることを聞いたことがあります。昨年6月頃でしたアメリカのある大学の教授で、お医者さんが、山形県の保健医療大学にいらっやって、講演されました。その方が知っている虐待された5歳の女の子でありましたけれども、地域の方々がその両親の相談相手になられたそうです。それで両親の話をいろいろ聞いて、相談相手になることによってその女の子は、虐待から解放されて、立派に成長することができて、結婚し、今では孫もいますっていうお話だったんです。

ストロングコミュニティっていう言葉が使われていました。そのまま訳せば強い地域社会ということになります。虐待の原因が何なのか。病気かもしれないというようなことも言われてもおりますけれども、犯人追及よりも、周りに住んでる人たちが手を差し伸べるとか、相談相手になることで、カバーできる非常に好ましい人間関係を作り直していくことができる地域社会づくりは本当に大事なんだなっていうことを私は感じました。

今お話を聞いていて、人に世話していただいたときは、その方々に感謝の気持ちをもつと

ということが、大事なんだと思っておりますけれども、その感謝の気持ちを持つ人づくりが一番大事ということであろうかと思えます。小さい頃から、みんなで助け合って生きていくんだということを教えなくちゃいけないと思うし、子どもは背中を見て育ちますので、何よりも身近な人に対する感謝の気持ちというのを私たち大人自身が示し合いながら、子どものしつけや教育というところで、感謝の気持ち、身近な人に感謝するということから、はじめていくのが大事なかなとお話を聞いていて思ったところでございます。

本当にいろんなことをご存じでいらっしゃいますし、これからもいろいろなところで、是非そのお考えを発信していただきたいと思えます。私たちも、いろいろな場でその山形県の良い意味での絆ということを大切にしていきたい。時代を担う人たちにも伝えていきたいと思っております。今日お集まりの皆さまにも是非、そういうことを伝えていただきたいなと思っております。

今日は本当に貴重なご意見をありがとうございました。

(司会)

発言を希望される方は挙手をお願いいたします。

【12 私立学校生徒への経済的支援について】

☆教育問題についてお伺いしたいと思います。

私立高校に行っている子どもで、例えば親の経済的な理由から学校に行けなくなった場合の支援とか手立てとかあったら聞きたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。

本当に特になんですけれども、昨今、経済事情が大変になっているご家庭が多くなっているのではないかと思っております。ご心配、ごもっともだというふうに思っております。

県では、学習意欲がありながら、経済的理由によって就学困難な高校生を支援するために、特別貸与奨学金と、独立行政法人日本学生支援機構、昔、日本育英会と申しておりました、その日本学生支援機構から、平成 17 年度に県へ移管された育英奨学金。ですから、特別貸与奨学金と育英奨学金、この 2 種類の奨学金の貸与を行っております。

また、所得の低い世帯や母子寡婦世帯の方は就学のための資金の貸付けも受けることができます。なお今年度から国の高校授業料無償化施策によりまして、私立高校生に対しては就学支援金が支給されております。その他、県でも独自の授業料、授業料軽減制度によりまして所得の低い世帯の負担軽減を図ると共に、年度の途中で保護者が失業した場合などの家計急変にも対応するなど、就学が困難な私立高校生を支援しているところでござい

す。通学されている私立高校、または総合支庁や町の福祉担当課にご相談いただきたいと思います。
思っております。